

50 万ドルの夜景

高 木 秀 貴*



18世紀後半のイギリスの産業革命を皮切りに、20世紀以降の急激な科学技術の発達、地球人口の急増、それに伴う化石エネルギーの枯渇、水資源の不足および地球温暖化の懸念等、21世紀を迎えた人類社会は、制御不能と懸念される全地球的問題を抱えてきている。現在、経済発展・急成長を遂げてきている中国とさらにインドを加えた2カ国で地球人口の三分の一強を占めてきており、先進諸国だけでなくこれらのアジア諸国の世界経済、地球環境に与える影響は甚大なものとなってきている。

近年、何度か仕事およびプライベートで中国を訪れる機会を持つことができたが、中国のすさまじい経済成長を感じつつも、都市と地方の経済および社会基盤整備の格差とその混乱には驚きを感じた。国全体を見れば、あたかも日本の終戦直後と現代が同居しているかの状況と言える。

人々は、職と生活を求め都市に集中し都市化に拍車がかかり、大気汚染に代表される大都市の環境悪化は大変なものである。都市の風景は、スモッグでビルや遠方の山々は霞がかかったように黒ずんで輪郭がはっきり見えず青空も望めない。瀋陽や北京だけでなく内モンゴル自治区の区都・呼和浩特(フフホト)でさえそのような状況である。飛行機の窓から見る大気は、山地部に至るまで北海道札幌の冬期のスパイクタイヤ粉塵問題が生じた頃の状況を彷彿とさせる大気下層に黒ずんだ汚染大気が滞留している状況に似ていた。あたかも山水画の世界のようである。

昨年、妻と香港を訪れた時、海岸沿いの都市なので内陸諸都市の状況とは違いただろうとの期待感を持って行ったが、20年ほど前に訪れた時と比べ、数十階建ての高層ビル・マンション群の林立に驚愕すると共に、ここでもやはり見渡す景色はスモッグの中、環境悪化を身にしみて感じた。観光スポットであるビクトリア

ピークからの香港の夜景も同様で、記念写真の撮影業者がパソコンでスモッグの光のスペクトルを除去し少しでも写真を鮮明にしようとしていたのには大いに落胆した。もはや「百万ドルの夜景」はほとんど期待できず、せいぜい「50万ドルの夜景」程度である。

このように、中国の大気汚染は甚大で危機的である。中国の突き進む急激な経済発展と人口の急増の現状からすれば「改善は絶望的」の感があり、水の汚染、農産物の農薬問題等を含め国民の健康被害等中長期的な問題が心配される。

先日 J I C A の瀋陽市からの研修生が当研究所を訪れた時、北海道札幌の印象をお聞きしたら、「空気がとてもきれい！」とまっさきにこの感想を漏らしていた。私も中国から戻る飛行機から降り立った時、北海道のクリーンな空気を思いっきり吸い、かつ札幌の都心からの藻岩山・手稲山のくっきりとした稜線を眺めつつ、得も言われぬ幸福感に浸ったものである。私たちが日々あたりまえに享受しているこの北海道の環境は本当に貴重なものであることを外国旅行の経験を通してより一層身にしみて感じると同時に、この北海道のすばらしい環境を将来とも維持向上させていくことの大切さを痛感している。

北海道のクリーンな水と空気そして景観、加えてその環境のもとで生産される農水産物は、そのような意味でも「世界の宝」であり、確実にグローバルな観点での北海道観光の売りの大きな要素と考えられ、今後に向けその輝きはより一層増していくものと言える。北海道洞爺湖サミットは、世界への「クリーン北海道」の情報発信として大いに期待される。

21世紀の社会基盤整備は、間違いなく「良好な自然環境・景観の保全・向上」が大きな目標の一つである。新しい年を迎え、寒地土木研究所もそれを支える技術研究開発に大いに精進したい。

(独)土木研究所 理事長代理 寒地土木研究所長*